

最終更新日	2016年(平成28年)10月1日
-------	-------------------

大門中学校区	校番 25	福山市立 大津野 小学校
--------	-------	--------------

## 2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表(案)

### I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

### II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

- ・福山100NEN教育を踏まえ、小中一貫教育・地域との連携・協力体制をより強固にする。
- ・学力向上の面で、改善に至っていない評価項目の再考する。
- ・自己肯定感の低い児童の固定化に対する取組の改善をする。

### III 中学校区

#### 1 めざす子ども像

自ら考え、学び、自尊感情を高める児童・生徒の育成

#### 2 研究主題及び主な研究内容

自ら考え、学び、自尊感情を高める指導のあり方

- ・道徳教育の推進

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

- ・基礎・基本状況調査の通過率が県平均と同じか上回っている学校数  
小学校(国Ⅰ 1/3 国Ⅱ 0/3)(算Ⅰ 3/3 算Ⅱ 2/3)(理Ⅰ 2/3 理Ⅱ 1/3)  
中学校(国Ⅰ 1/1 国Ⅱ 1/1)(数Ⅰ 0/1 数Ⅱ 0/1)(理Ⅰ 0/1 理Ⅱ 0/1)
- ・校区の学校 児童・生徒の達成率
  - ② 家庭学習時間 小学校(低30分以上91%中60分以上85%高90分以上71%)中学校(90分以上32%)
  - ② 服装・時間 小学校(服装86%時間82%)中学校(服装98%時間98%)
  - ③ 自らあいさつ 小学校(90%) 中学校(95%)
  - ④ 問題行動 小学校累計(暴力1件いじめ4件不登校0人) 中学校(暴力3件いじめ1件不登校3人)
  - ⑤ 自尊感情 「自分の良さは周りの人から認められていると思う」「とても」小学校 17%  
中学校 25%

##### (2) 授業

- ・授業の「めあて」が活動目標にとどまり、思考力・判断力等の深まる指導になっていない。
- ・形態としては、ペア・グループ学習を行っているが、互いに学び合い、高まり合う協同学習まで至っていない。

### IV 自校

#### 1 学校経営方針

##### (1) 学校教育目標

大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力

##### (2) 自校の使命(ミッション)

見えない「人間の根っこ(学問・社会性)をつくる

##### (3) 自校の将来像(ビジョン)

「知」・・・真剣に学習し、基礎学力をつける学校  
 「徳」・・・黙って掃除、あいさつができる学校  
 「体」・・・めあてを守って運動・外遊びに励む学校

#### 2 研究主題及び主な研究内容

主体的に学び、確かな力をつける授業の創造

- ・学びを実感できる単元づくり
- ・課題追求の手立てとしての「めあて」「まとめ」「振り返り」
- ・対話を活かした協同的な学習

#### 3 現状(成果及び課題)

##### (1) 児童生徒

○日々の登校班や縦割り掃除のつながりの中で、リーダーが育ってきている。  
 △いろいろな場で認め合う取組をしてきたが、自己肯定感が低い児童が固定化している。  
 △決められたことは動くが、自分で考えて、行動する力が弱い。

##### (2) 授業

○国語科において単元のゴールを児童と共有したり、評価規準の提示をしたりすることで、児童の学び意欲や教師の評価意識が高まってきている。  
 △評価規準の質が課題である。  
 △めあて・まとめ・振り返りを意識して授業を行っているが、教師主導で、児童が主体的に課題を発見したり、追求したりする授業が少ない。

#### 4 めざす授業の姿

自ら考え、学び、自尊感情を高める授業

- ・自分の考えを書きことができる授業
- ・児童が互いに学び合い「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点 目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた 取組	評価指標	10月1日 □指標にかかる取組状況 ◎改善方策	加 減 評価	達成 評価	2月末 □指標にかかる取組状況 ○短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策	加 減 評価	達成 評価	総合評 価
確かな学力	1	基礎学力を身につけた児童の育成		見直し	国語科・算数科における基礎学力を高める。	・つきたい力を明確にし、毎時間評価規準を提示する。	△国語科の単元テストの全観点において、60%未満の児童を低学年6%未満、中学年9%未満、高学年12%未満にする。 【単元テスト】	□単元テストは11学級中6学級が達成。達成率は54.5%。 □評価規準の提示は14学級中6学級が達成。達成率は43%。 ◎帯タイムや家庭学習で漢字を繰り返し学習し、1学期の学習の定着を図る。 ◎夏季休業中に作成したプリントを活用し、問題の解き方に慣れさせる。 ◎ドリルやワークなどを確実にやりきらせる。	3	1				
							△算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%未満、中学年9%未満、高学年12%未満にする。 【単元テスト】	□単元テストは11学級中8学級が達成。達成率は72.7%。 □評価規準の提示は14学級中8学級が達成。達成率は57%。 ◎帯タイムや家庭学習で繰り返し学習し、技能の定着を図る。 ◎夏季休業中に作成したプリントを活用し、計算問題の解き方に慣れさせる。 ◎間違いの直しを徹底して行い、ドリルやワークなどを確実にやりきらせる。	3	2				
豊かな心	1	ルールを守り、自尊感情をもった児童の育成		継続	大門中学校区スタンダードの「時間を守る」習慣を身につけさせる。	・「Let's start キャンペーン」を実施する。(4月・6月・9月・11月・1月)	△「次の学習準備」ができている児童を95%以上にする。 【教師評価】	□授業準備は14学級中10学級が達成。達成率は95.9%。 □Let's start キャンペーンを行うことで、児童の意識が高まった。 ◎目標を達成できていない学級は、学習準備ができたか班ごとに児童が確認をし、学級全員がそろったら休憩をするように取り組む。既に目標を達成している学級は、児童自身が学級に呼びかけるなど主体的な取組にしていく。	4	4				
				★	自尊感情を高める。	・自尊感情を高める活動を年間6回以上導入する。	△「自分の良さは周りの人から認められていると思う。」と肯定的評価をする児童を80%にする。 【児童評価】	□児童の肯定的評価が82.9%。 □自尊感情を高める活動がかがやき班遠足後と体育発表会後の2回実施。 □毎日の帰りの会で「いいことみつけ」を行い、友だちの頑張りを発表し合っている。 ◎気になる児童と定期的に面談を行い肯定的評価を重ねる。放送や付箋紙などを用いて、頑張っている児童を評価したり紹介したりする。	3	4				
健やかな体	2	自分の身体に関心を持ち、自ら健康・体力の向上を目指す児童の育成		見直し	体力向上を図る。	・課題のある種目について家庭学習や体育の準備運動に取り入れる。	△体力テストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。 【体力テスト】	□96種目中62種目が達成。達成率は64%。 □測定方法やポイントについて職員研修をしたり、体育朝会で紹介をしたりして取組への意識を高めた。 ◎体育の授業の導入で20m走やシャトル投げを取り入れ、瞬発力と投力を高める。 ◎大休憩体力づくりで基礎的な技能の習得を目指したり、ロング昼休憩を設け外遊びの充実を図ったりする。 ◎毎日行う家庭学習で体幹を鍛えるメニューを取り入れる。	4	4				
				★	健康増進を図る。	・残菜日数が20%以下または、前月の残菜率を下回った学級を月ごとに表彰する。	△給食の残菜が、全校合わせて1.2kg以下の日を月の半分以上にする。 【給食残量】	□4～9月まで毎月達成。達成率は100%。 □給食がんばり表を掲示し、毎月表彰をすることで、残さず食べようとする意欲付けを行うことができた。 ◎毎日食べきる・飲みきることができた学級を、給食がんばり表で評価し、放送で紹介する。また、上位4学級だけでなく、前月より達成率が大きく向上している学級等を表彰し、学級の実態に応じた声かけを工夫して意欲を高める。	4	4				

力量ある教職員	1	自ら確かな授業力を高める教職員	★	新規	授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手ミニ研修を年間10回実施する。</li> </ul>	△授業者が目標を達成できたと思う授業を学期に2回以上その授業の板書を写真に残す。 <b>【板書写真】</b>	□板書写真は100%達成。 □日頃から板書写真を撮るなど、構造的な板書をめざして日々取り組むことができた。 □若手ミニ研修は90%達成。年度始めの学級づくりの時期や夏季休業を中心に9回実施した。また、職員自身が事前課題を持ち寄るなど、積極的に研修に参加した。 ◎板書写真をもとにした学年間での交流をする。 ◎計画的に、また参加する職員の希望や必要がある時に、若手ミニ研修を随時実施していく。	4	4				
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思考力・判断力・表現力を高める課題追求型のめあてにする。</li> </ul>	△めあてに対するまとめや振り返りを自分で書ける児童を低50%中60%高70%にする。 <b>【ノート評価】</b>	□まとめや振り返りは11学級中11学級が達成。達成率は100%。指導者がまとめ方の提示をしたり、まとめの手本になる児童に発表をさせたりすることで、めあてに対するまとめの仕方が少しずつ定着してきた。 □課題追求型のめあての提示は11学級中6学級が達成。達成率は54.5%。 ◎まとめや振り返りを交流し、自分で書ける児童が増えるように継続して取り組む。 ◎単元指導計画を練る際に、思考力を育てる授業を明確にし、課題追求型のめあても計画する。	4	4					
市民から信頼される学校	1	保護者・地域から信頼される学校の創造		見直し	保護者・地域との連携・協力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA活動や地域行事を教職員・児童が知る。</li> </ul>	△PTA活動や地域行事に参加する児童を延べ人数で全児童数の150%以上にする。 <b>【参加状況】</b>	□延べ人数で316人中469人が行事に参加し、達成率は148.4%。年間の行事予定について、事前に全職員に周知徹底することで、見通しをもって児童に参加の呼びかけを行うことができた。 ◎大門公民館等、地域との連携を密にして行事を把握し、参加を呼びかけられるようにする。	4	4				
					子どもの育ちが見える情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの様子が分かる学年・学級だよりの発行とHPの更新を月2回以上する。</li> </ul>	△「子どもが楽しく学校に行っている。」と肯定的評価をする保護者を90%以上にする。 <b>【保護者評価】</b>	□保護者アンケートの達成率は90.6%。 □学年・学級だよりの達成率は96.4%、HP更新の達成率は100%。 □HPを業者と連携して刷新し、見る人にとってより分かりやすく、教師にとっても更新しやすくなった。 ◎保護者アンケートに「あてはまらない」「わからない」と答えた保護者が9.4%おり、該当の保護者へは児童の頑張りや様子についてこまめに連携をする。また児童についても具体的な適切で評価を繰り返し行ったり、特別活動の取組を進めたりして児童の自己肯定感を高めていく。 ◎学年・学級だよりのHPについて、進行管理表の状況を見ながら目標が達成できるよう、早めに声かけをする。	3	4				

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)